

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 9 1 0 0 0 0 5 8		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	江別ケアパークそよ風グループホーム		
所在地	江別市1条3丁目12-2		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000058-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・町内会はじめ、外部との交流の機会が少なかったです。今後より接点を増やしてまいります。 ・御家族様とより信頼関係を深めるため、懇親会の開催、日々のカンファレンスへの参加呼び掛け等行ってまいります。 ・医療連携体制加算を取得しました。今後よりスムーズに医療に繋げていける様、体制作りを検討しております。 ・介護記録の変更により、入居者様との関わりがより深まる結果が出ております。今後のケアの深化について、自信を持っております。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運行本数の多いJR駅やバス停に近く、交通至便の地に位置している当ホームは、運営法人系列のディサービスなど福祉介護関連4事業所が入居している6階建てのビル内に有り、防災設備の完備や災害時における地域住民との相互協力体制など災害対策への備えから家族にとっても安心感があります。ビル内の4事業所は、避難訓練や納涼祭など諸行事の合同実施、ホーム利用者のディサービス内温泉施設利用など事業所間の連携体制が運営面の容易化や効率化に相乗効果を上げています。平成23年の運営新体制移行後に、管理者を中心に利用者へのケアサービスのあり方を見直し、ケアプランに連動して分かり易い介護記録様式の採用や医療連携体制をを取り入れながら看取りまで可能とするなど一層利用者に寄り添った支援に努めています。利用者の楽しみである食事についても重視し、日常の献立以外に誕生日や季節行事、車両利用による外食、出前など変化のある食事を追加料金設定なしで実施して家族からも喜ばれており、今後の成長が期待できるホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に「そよ風憲章」及び「グループホーム江別ケアパークそよ風基本理念」を掲示しております。管理者と職員は、その理念を会議・朝礼にて共有しております。	法人共通の理念とホーム独自の理念を持ち、ホーム内に掲示しています。共通理念は、系列事業所合同で毎朝唱和し、ホーム理念は、理念をベースにした接遇マナーと共に朝礼や会議で確認しながら共有し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と密にコンタクトをとり、町内会の行事に参加しております。又ボランティア（傾聴・折紙教室・手話歌あやとり等）、実習生受け入れで、交流が広がっています。	バーベキュー大会などの町内会行事へ積極的に参加し、事業所合同主催の納涼祭には住民も参加して楽しんでいます。地域ボランティアの慰問も多く、実習の受け入れや幼稚園児の訪問もあるなど地域との日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様との会話を通じ、理解を深めて頂ける様関わりを行っております。また、「あおいの会」主催による「認知症講座」の運営に職員を派遣し、ご家族様には参加の働き掛けを行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催において、加算算定・ユニットの近況・活動内容等をテーマに実施しております。取り組み全般に際し、運営推進会議での合意を必要条件としております。今年度は「サービス提供体制強化加算Ⅱ」算定にあたり、当会議にて趣旨説明・合意形成を行いました。	運営推進会議は定期的に行われ、ホーム運営状況と今後の方針などをテーマにして参加者と意見交換を行いながら提案等を運営に活かすよう努めています。会議内容を理解し、会議へ参加して頂くよう議事録も全家族へ送付しています。	運営推進会議は、家族やホーム関係者以外の外部参加者が少ないため、町内会関係者、民生委員、消防団員、教育関係者、近隣事業所など広範囲に呼びかけて、外部参加者が増えることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の現況報告の他、書類提出の際に提案・助言を頂いております。今後はより信頼関係を気付ける様、発信力を高めていきたいと思います。	市担当窓口へは、主として支配人又は副支配人が訪問していますが、管理者も相談事項など随時、連絡を取りながら行政との協力関係を高めるよう努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修を、事業所・当ホーム内で実施しております。ユニットの自動ドアについては、入居者様の状態に応じ、ご家族様の同意のもと施錠する時間があります。	運営法人は、身体拘束をしないケアや虐待防止関連のマニュアルや資料を整備しています。さらに、身体拘束廃止など複数の委員会を構成し、研修会と併せて職員への徹底と実践に努めています。入口の施錠は、外部からは制限がありますが、内部からは自由に出ることが可能です。	利用者の諸事情によりケアサービス方法が異なる場合もありますが、家族や外部の誤解等を避けるため家族の同意書を頂き、マニュアルの手順に従って経過記録も正確に行いながら支援する事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修にて学びの機会を担保しております。また施設内に「虐待防止委員会」が設置しており、ユニットのリーダー職員が参加・内容の周知徹底を行っております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「江別ケアパークそよ風」全体会議にて、諸々の内部研修を実施しております。また、研修委員会にて年間研修計画を作成しており、左記内容についても織り込んでいくようにします。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別及び運営推進会議にて、趣旨を説明し理解を求めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の案内状に「ご意見賜りたい」と印刷し各ご家族様等に配布致しております。また会社として「満足度調査を年1回行う他、玄関口に「そよ風BOX」を設置しました。目安箱として利用しておりますが、開始3カ月目にて未だ投書はありません。 年4回、グループホーム通信を発行しております。	法人共通のアンケートを実施し、家族来訪時にも利用者の様子を伝えています。また、4事業所共通の「そよ風」通信やユニット毎のお便りも郵送しています。訪問の少ない家族へは別途に利用者の状況を伝えるお便りを出しています。家族からの要望等は、内部で検討して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年間予算・売上目標など経営の実情については、レジュメを残しているものの、周知には至っておりません。口頭での伝達等、具体的に周知に向けて取り組む必要を感じております。 日常ケアについては、月1回のユニット会議・その他諸々の会議・研修等を通じ職員間で意思疎通が図れております。	ユニット会議や両ユニットの合同会議で職員からの要望や提案を聞く機会があり、日常業務においても管理者やリーダーと職員が自由に話し合いをしています。職員からの要望等は、会議等で検討しながら運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	支配人・管理者は職員との面談を通じ、当該職員の思いを把握するよう努めております。 介護記録の見直しによって、残業時間が激減しました。休憩時間についても、以前に比べ確保できるようになっております。給与については、江別ケアパークそよ風全職員のベースアップに向け動いております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の「研修委員会」が窓口となり、外部・内部研修への参加機会を確保しております。 ユニット全体がのびのびとした雰囲気の中、各職員の能力に応じたアドバイスを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「あおいの会」への参加にて、管理者間・介護職員間の交流を図っております。情報の共有、ネットワークづくりの要素となっております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後にアセスメントをとり、ケアプランを作っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後にニーズを読み取り、基本情報におとしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床の為入居事例がありませんでした。入居問い合わせに際しては、他施設の状況・併設事業所の状況等をお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスを通じ、関わり方全般について意識統一を図っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の不安・要望を傾聴し、ご本人様に対し納得のいく支援を提供できるよう、話し合いを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム事務所の戸を開放し、しらかばユニットとの往来を推進しています。面会の方に対しては、ゆっくり話ができるようにお茶・お菓子等提供させて頂いております。またボランティアの受け入れも継続し、馴染みの人間関係を継続しております。職員も定着しており、入居者様との信頼関係も醸成されております。	高齢化と介護度の高い利用者が多いため、馴染みの場所などへの外出希望は少ない状況ですが、希望に応じてドライブなど支援しています。家族や知人が来訪した際にも歓迎して、お茶やおやつを提供しながら居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動、ボランティアの活用等、様々な取り組みの中で、入居者様同士の関わりが保たれる様配慮しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の経過について、主だった相談等はきておりません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・職員共に、表情・動作・及び言葉の中から御本人様の意向を察し、情報共有に努めております。	職員は、利用者との関わりの中から経験的に思いや意向を把握出来るようになっていきます。把握困難な時は職員間で相談し、本人が嫌がることは避けるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際しアセスメントをとり、基本情報に残しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をとり、朝夕での職員間の申し送りの際に情報共有しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族・介護職員・看護職員・医療関係者など、様々な方々の意見を集約し、ケアプランを作成しております。利用者にとって最適な計画になる様協議を行っています。また、介護記録が連動したものとなるために、ケアプランを介護記録と同じカートリッジに挟めて、確認しやすいよう環境を整備しております。	ケアプランは、担当職員がモニタリングを行いながら3ヵ月毎に見直しをしており、利用者の状態変化に応じて家族や担当医師とも相談して現状に即したプランを作成しています。また、ケアプランに対応して介護援助計画表を用いながら介護記録との連動性を高めるなど職員が支援し易い環境整備をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、「特記事項およびプラン」に焦点をあてたものを記入する事・・・とルール変更を行いました。定期および臨時のカンファレンスを行い、介護計画見直しを検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対し、最大限お応えできるよう、ユニット会議・御家族様との話し合い等の機会を持っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食・町内会行事への参加・グループホーム交流会への参加など、計画立てて活用しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族が希望する医療機関の受診支援を、都度話し合いながら行っております。往診医による24時間連絡体制・月2回の定期往診の手段を確保しております。主治医の他、専門医の往診・受診も行っております。	24時間オンコール対応の協力医療機関によって隔週毎の訪問診療を実施しています。また、かかりつけ医の受診も自由です。受診には家族対応を原則としています。殆どは職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者に情報が伝達され、管理者より看護職員・提携医療機関の看護師等に相談を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関への情報提供について、フェイスシートの再検討を行っております。主治医への情報提供も、切れ目なく行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制加算を取得しました。今後、終末期のケアに際する取り決めを、全入居者様それぞれに行う予定です。 しらかばユニット管理者がターミナル研修を受講終了しており、今後全職員に伝達行う予定です。	昨年、医療連携体制加算制度を取り入れ、重度化や終末期の指針を作成して家族から同意書を頂いています。すでに、管理者はターミナル研修を受講済みで、今後は職員にも関連研修実施の予定です。	今後は、家族の希望等によって利用者の看取りまで支援することになりますので、計画している職員のターミナル研修の早期実施と可能であれば法人系列の事業所で看取りの実務研修を受けることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意しております。救急救命の実技訓練について施設内で実績がなく、課題として提示していきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体として、年2回、昼夜想定避難訓練を実施しております。また緊急連絡網を用意しております。 今後は、入居者様一人一人を、具体的にどの様に避難誘導するか、検討してまいります。また地域・家族の方々との協力体制構築を目指します。	ビル内には防災設備を完備し、4事業所合同で年2回の夜間想定を含めた避難訓練を実施しています。地域にも災害時の協力要請を行い、避難訓練に地域住民も参加しています。災害時用の食料品など備蓄品も用意しており、順次、必要備蓄品を充実の予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に接遇マナーの唱和を行っています。 基本理念を基に、各入居者様に適合した声掛けを都度意識しております。	ホームでは、朝礼時に理念に基づいた接遇マナーの唱和をして職員の意識を高め、利用者への声掛けやケアサービスの際に誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご要望について、より戸惑いなく表出できるように、関わり方を検討しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安全性を保ちながらも、いかに自由な環境をつくりたいか、検討しております。介護記録の変更を行い、「業務」にゆとりが増えました。それにより、以前に比べ入居者様に寄り添える様になった実感があります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の要望・状況に応じて、心配りをしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ入居者様の好みを反映した献立を、作成しています。又月に2回の行事食・出前・外食・・・と、変化をつけております。	ホームは食事内容を重視しており、法人内栄養士と相談しながら栄養バランス等を配慮した献立をたてています。誕生日や季節行事の特別メニュー、外食や寿司などの出前と利用者はバラエティに富んだ食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は、栄養士が作成したメニューが土台となってバランスをとっております。食事量・水分量は毎食毎に記録しております。また、1人ひとりの状態に合わせ、刻みやとろみ等の対応を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがいを行っています。食後の口腔ケアについては、スポンジブラシの使用等、入居者様それぞれの状態に合わせて行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄状態を把握し、適時声掛けを行っております。又、入居者様に適合した下着や衛生用品を、ご家族様も交え都度検討し、導入しております。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけパットや布パンツを使用しながらさりげない声掛け誘導などでトイレでの排泄を行うよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事における食物繊維・乳製品の摂取を進めています。下剤の調整については、医師・看護師との連携にて行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の入浴時間については、午後13：30から15：00の間、3名様を関わらせて頂いております。当該時間の中で、ご本人の希望に応えられます様配慮しております。その他併設事業所の温泉を借用し、「温泉レクリエーション」として企画実施しております。	入浴は、午後の時間帯に実施していますが、温泉レクリエーションとして1階のディサービスにある温泉大浴場を利用して喜ばれています。入浴を拒む利用者には無理をせず、話しかけ誘導や日時を変えたり、足浴や清拭などで身体の清潔を保つよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の状況、その日の状態に応じ、又はご要望に応じ、適宜休息の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬についての理解に、未だ職員個人差がみられます。体調変化に応じて処方される薬剤については、ほぼ全職員が理解しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は入居者様個々のADLに応じ、楽しみ・嗜好品等を見つけていく様に働き掛けを行っています。また嗜好に応じたおやつ、飲み物等を提供しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、ご要望には沿えない事も多いです。冬期は館内の散歩を声掛けしております。春以降、気候に応じて外への散歩・外出のレクリエーションを実施する予定です。	利用者は、ホーム周辺や公園の散歩、隣接店舗で買い物などに出かけ、ホームの車両で紅葉見学など外食を兼ねての外出行事も行っています。また、夏祭り（納涼祭）や収穫祭に駐車場スペースで食事を楽しむなど戸外で過ごす機会も持つようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人・御家族の意向を確認した上で、必要額をお持ち頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の意向を理解しながら、キーパーソンの方との連絡調整の上、都度対応を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾をほどこしております。冬期は風邪・ウイルス対策の一環として、共有空間の加湿を行っております。	ホームは、ビル内の3階に位置しているため、居間兼食堂の窓からの見晴らしも良く、明るい共有空間となっています。浴室やトイレも清掃が行き届いて不快感はありません。居間兼食堂には、絵画や季節の飾りなどで落ち着いた雰囲気があり、冬期には加湿器を多数設置して利用者の健康維持に配慮し、居心地の良い空間となるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事務所の戸を開放し、フロア間を行き来しやすくしております。入居者様のご要望に応じて、居場所を御案内させて頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置を入居者様が自由に、使いやすく配慮しております。行事・レクリエーションの内容に応じ、勤務者を増やす等の配置をしております。	利用者は、居室に使い馴れた家具類や物品を持ち込んで好きなように配置し、のんびりと暮らしています。居室の広さは十分で明るく、クローゼットと棚も設置されているため持ち物の整理や写真などを飾るのに便利な室内となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を設置してあるほか、居室入口に名前を書いて案内表示とする等、個別に工夫を行っております。		